



那珂川町合併記念特別展 江戸の庶民 POWER!

—サントリー美術館所蔵 風俗画と浮世絵—

いろ え ご そうせんもん こ ま が た ば ち 「色絵五艘船文独楽形鉢」

ここに古伊万里の鉢が1つ。見込（皿の内面）部分に、オランダ船が3艘、そして（写真では隠れていますが）鉢の側面に2艘、合計5艘が描かれているデザインなので「五艘船手」と呼ばれるものです。さらに赤や紫、緑、青、金で彩られた見込縁部にはパイプやステッキを手にしたオランダ人が描かれています。磁器とオランダ。不思議な組み合わせです。

伊万里焼は17世紀初頭、現在の佐賀県有田町で生産が始まった磁器で、有田や周辺一帯の焼物が伊万里焼として、伊万里港から国内各地に広まってきました。しかしなんととっても伊万里焼の発展を促したのは、17世紀半ばから行われたヨーロッパ各地への大量輸出。これを手がけたのが実はオランダ商船だったのです。伊万里焼とオランダには深い関わりがあったというわけです。

本作品は、国内向けの商品だったのでしょうか。オランダを題材にした物珍しさが喜ばれたに違いありません。オランダ人の表情、ヨーロッパの紋章風アレンジされた牡丹紋…。湾曲した周縁部に筆を運ぶ労力と技術を思うと、この紋様の描きこみには驚くばかりです。



重要文化財「色絵五艘船文独楽形鉢」高9.7cm 口径37.0cm 高台径20.4cm
18世紀後半 サントリー美術館所蔵

さて、ちょっと派手なこの鉢、何を盛りつけるのが相応しいでしょうか？伊万里金襴手の代表的作品で、重要文化財の指定も受けている逸品ですから、実際には使用することはできませんが、想像は自由！あなたなら、どうやって使いますか？

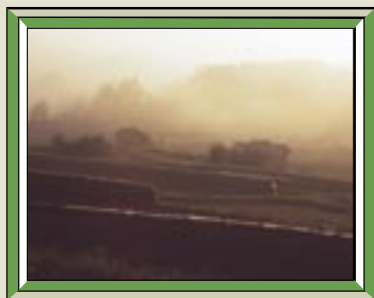
※この作品は6月4日まで那珂川町馬頭広重美術館で開催の、那珂川町合併記念特別展「江戸の庶民 POWER! —サントリー美術館所蔵風俗画と浮世絵—」に出品されています。

（学芸員 津田 卓子）

「ばとうの観光写真 コンテスト受賞作品」

今回で3回目となった観光写真コンテスト。応募作品111点の中から選ばれた14点の中に那珂川町の2人の作品が見事に入選しました。おめでとうございます。

朝霧の里 菊池専一郎さん（矢叉）



ミニ ギャラリー



たけのこ祭 青木信夫さん（小川）